P/N 0002FF2-2

Mocking Bird MO

外付け型ＦＭＯモデル
１３００／６４０／２３０シリーズ

取扱説明書

株式会社 富士通パーソナルズ

は　じ　め　に

このたびは、Mocking Bird-MO　光磁気ディスクユニットをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。　ご使用いただくまえに、必ず本書をお読みください。

保証書について

保証書は必要な事項がかきこまれているかをご確認ください。　お買い上げ時に正しく記入されていない場合は保証書が無効になり、無償保証を受けられないことがありますので、十分ご注意ください。
記載内容が不十分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。

ユーザー登録カードについて

ユーザー登録カードは、必要事項をご記入の上必ずお出しください。
ユーザー登録がない場合、サポートやバージョンアップなどサービスを受けることが困難になります。

お読みください

１．本書は、制作元が著作権を有します。

２．本書の内容の一部または全部を無断で転載することを禁止します。

３．本製品および本書は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。あらかじめご了承ください。

４．本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権その他の権利については、当社はその責を負いません。

５．本書の内容および本製品に関しては、万全を期して作成および製造しておりますが、万一ご不審な点がありましたら、お問い合わせください。

６．本製品を使用した結果の影響については、５項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

７．また、６項に伴いシステム、データ、ＭＯディスクなどの保証は、一切できかねます。
更に、ソフトウェア・ハードウェアの故障・誤動作・その他のどのような理由によって発生した損失に関しても、一切できかねますのでご了承ください。
大切なデータ、プログラムを収めたＭＯディスクには、必ずライトプロテクトを行うようにし、さらにバックアップを行うなど、安全策を心掛けてください。

８．本製品は絶対に分解しないでください。　分解されますと、お客様の財産に損害を与える事故が起きても補償いたしません。　また、一度分解されますと故障した場合の修理は保証期間内であっても有償修理となます。

９．本書にある商品名・名称などは、各社の商標または登録商標です。

株式会社 富士通パーソナルズ
ハイパーセレクションサポートセンタ
TEL 0120-65-8180

も　く　じ

取扱い上のご注意

●ご使用の前に必ず「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。

●取扱説明書の表示について
次のような表示と内容により「取り扱い上の注意」を説明しています。
必ずお読みの上、説明書の内容に沿って正しくお使いください。

警告 この表示は、「使用者が死亡または重傷を負う可能性がある内容」を警告しています。

注意 この表示は、「事故や故障、損害などが起きる可能性がある内容」を注意しています。

●異常が発生したとき。
本体から異臭や煙、発火が発生した場合には、直ちに電源をＯＦＦにし、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

●異物を入れないでください。
本体内部には高圧な電気が流れている部分や、機械的な動作をする部分などがあります。
異物が入るとショートや機器の破損・故障、あるいは火災・漏電・感電など重大な事故の原因となりますので絶対に入れないでください。
水など液体が入ったり浸水してしまうと機器の破損・故障、あるいは火災・漏電・感電など重大な事故の原因となります。　また状態によっては、修理不可能となる場合があります。
異物が万一入ってしまった場合は、分解したり無理に取り出したりせずに修理としてご依頼ください。

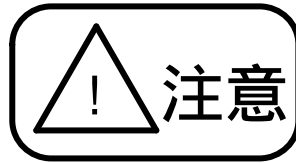
●分解しないでください。
本機は絶対に例えネジ一本でも分解しないでください。
分解されますと、機器の破損・故障、あるいは火災・漏電・感電など重大な事故の原因となります。
その際に発生する、いかなるお客様の損害に対しても一切補償いたしません。
また一度分解されますと、いかなる原因によって発生した故障の修理は、保証期間内であっても全て有償修理扱いとなます。　分解された事に対するサポート（修理対応は除く）は一切いたしません。

●電源は、専用ＡＣアダプタで使用して下さい。
ＡＣアダプタは必ず専用のものを使用して下さい。
また、ＡＣアダプタはＡＣ１００Ｖ（５０Ｈｚ／６０Ｈｚ）・国内用です。
海外や特殊な電源装置（電圧変換インバータ、発電機など）からの供給によるご使用は絶対にしないでください。機器の破損・故障、あるいは火災・電気的なトラブルなど重大な事故の原因となります。

●電源ケーブルは丁寧に。
電源ケーブルは破損しないように十分にご注意ください
ケーブル部分を持っての抜き差しや、物が乗ったり、鋭い物に当たっていたりすると、ケーブルの被服が損傷し、故障、あるいは火災・電気的なトラブルなど重大な事故の原因となります。

●タコ足配線は止めてください。
タコ足配線は過電流による過熱や火災の原因となります。

●ＡＣアダプタのプラグは確実に根元まで差し込んでください。
差し込みが不完全な場合、隙間にほこりや異物が入り火災の原因となります。

●濡れた手で取り扱うのは危険です。
濡れた手で、本体の取り扱いをしたり電源ケーブルやＳＣＳＩケーブルの抜き差しをすることは絶対にしないでください。機器の破損・故障、あるいは火災・漏電・感電など重大な事故の原因となります。

●強い磁気や強い電波が発生しているものには近づけない。
磁石のような磁気を発するものや、無線機のような電波を発するものを近づけないでください。
誤動作をする可能性があります。

●落下したりぶつけたりしない。
輸送時（修理ご依頼や引越し・移動など）のときに落下したりぶつけたりして、強い衝撃や振動を受けると故障や破損する可能性があります。　また、MOディスクを排出してから移動してください。挿入されたまま衝撃や振動を受けると故障や破損する可能性があります。

●電波に影響する機器には近づけない。
この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害の原因となる場合がありますので、近づけないように設置してください。
また、電波に影響される機器にも近づけないようにしてください。誤作動をさせる可能性があります。

●設置は快適な場所で。
振動の大きい場所、ホコリのひどい場所、薬品の雰囲気中での使用はしないでください。故障の原因となります。

●温度や湿度の厳しい場所や状態で使用しない。
極端な高温(低温)状態や高湿度な場所、直射日光の当たる場所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くでの使用はしないでください。故障の原因となります。
また、急激な温度変化は結露の原因となり動作させると故障の原因となりますので、周囲の温度になじんでからご使用ください。

●通風口はふさがない。
内部が高温となり、故障の原因となります。

●設定や接続の変更や操作は電源をＯＦＦにしてから。
接続をしたり変更したりする場合には必ずパソコンおよび周辺機器全ての電源をＯＦＦにした状態で行ってください。本体の設定をしたり変更したりする場合には必ず本体の電源をＯＦＦにした状態で行ってください。　電源ONの状態で取り扱いをすると、故障の原因となります。

●電源のＯＮ／ＯＦＦは順序を守って。
電源投入の順序は、本体および接続されている周辺機器から先にONにして、最後にパソコンの電源をＯＮにするようにしてださい。
本体の電源を切るときは、パソコンの電源を先にＯＦＦにしてから、本体および接続されている周辺機器の電源をＯＦＦにしてください。
◆パソコンと連動して電源がＯＮ／ＯＦＦされる場合はこの限りではありません。

●ＭＯディスクを読み書きしているときは、そのままに。
ライトキャッシュの機能によってパソコン上では書き込みが終了しても、本体は動作を続けています。
本体のACCESSランプが点灯している状態で電源を切ったり、イジェクトを行わないでください。
MOディスクの物理的な破壊およびデータ破壊、本体の破損や故障の原因となります。

●データのバックアップを。
MOディスクへの読み書き動作中に不意の障害や事故が発生した場合、MOディスクの読み書きおよびデータの復元が不可能になる可能性があります。万一のためにバックアップを行うように、安全策を心掛けてください。
また、大切なデータ、プログラムを収めたMOディスクには、必ずライトプロテクトを行うようにしてください。

Section 1

ハードウェア
セットアップ

Part 1　セットアップの概要

(1) 初めてお使いいただく場合は、次の順にお進み下さい。

開　封	梱包の内容を確認する
▼	
読　む	取扱説明書を順に読む
▼	
設　定	MOディスクユニットの設定／接続
▼	
起　動	
▼	
デバイスドライバのインストール	

(2) 梱包内容

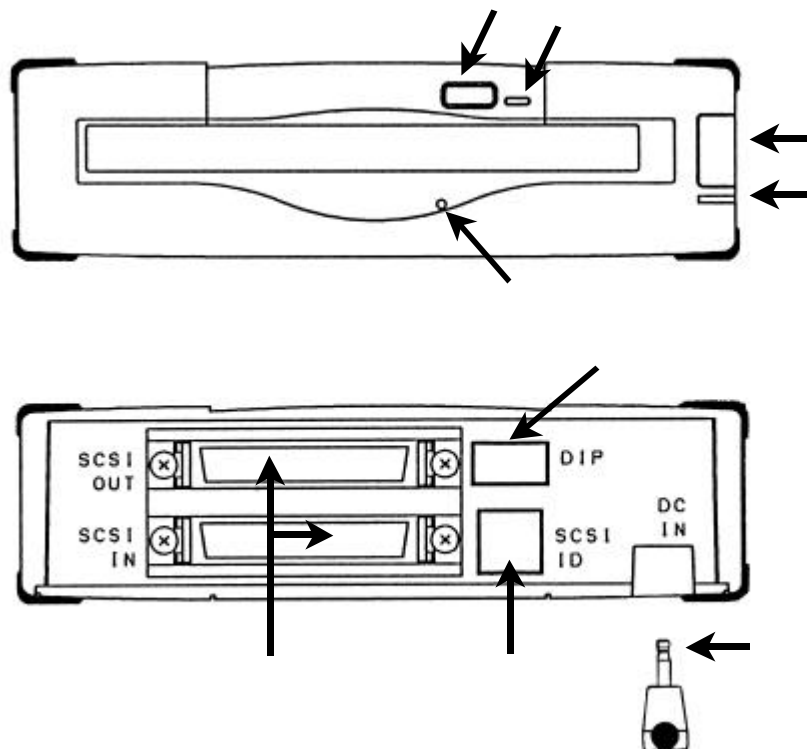
以下のものが梱包されていることを、お確かめください。
万一不備な点がございましたら、お買い求めの販売店、もしくは当社までお申しつけください。

・MOドライブユニット本体　・・・・・・・・・・・1台
・スタンド　・・・・・・・・・・・1個
・ACアダプタ　・・・・・・・・・・・1個
・取扱説明書（本書）　・・・・・・・・・・・1部
・イジェクトピン　・・・・・・・・・・・1本
・SCSI･ID番号設定用 回し具　・・・・・・・・・・・1本
・保証書　・・・・・・・・・・・1枚
・ユーザー登録カード　・・・・・・・・・・・1枚
・６４０MB・MOディスク（６４０モデルのみ）　・・・・・・・・・・・1枚
・１．３GB・MOディスク（１３００モデルのみ）　・・・・・・・・・・・1枚
・デバイスドライバ（CD－ROM）　・・・・・・・・・・・1枚

専用付属品（FMO－１３００W2）
・SCSIケーブル　・・・・・・・・・・・1式

専用付属品（FMO－２３０WS２／６４０WS２／１３００WS２）
・SCSIカードセット　・・・・・・・・・・・1式

Part 2　各部の名称とそのはたらき

●各部の名称

① ＡＣＣＥＳＳランプ
MOディスクの読み書き動作時に緑色に点灯します。

② ＰＯＷＥＲランプ
MOディスクユニットの電源がＯＮになると、緑色に点灯します。

③ ＥＪＥＣＴスイッチ
MOディスクの取り出しのときに押すスイッチです。
MOディスクユニットの電源がＯＮになると、使用することができます。
◆MOディスクユニットの電源がＯＦＦのときには使用できません。

④ 強制ＥＪＥＣＴホール
MOディスクが取り出せなくなったときに、付属のイジェクトピンで差し込んで、強く押すと取り出せます。
◆緊急時のみお使いください

⑤ ＰＯＷＥＲスイッチ
MOディスクユニットの主電源スイッチです。

⑥　ＳＣＳＩコネクタ

ＳＣＳＩカードやＳＣＳＩ機器とケーブルで接続するコネクタです。
コネクタ形状はハーフピッチ　Ｄｓｕｂ５０ピン（メス）です。

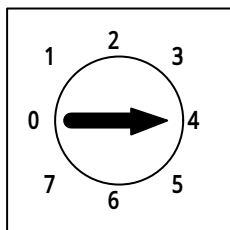
⑦　ＤＣ　ＩＮ（電源供給）

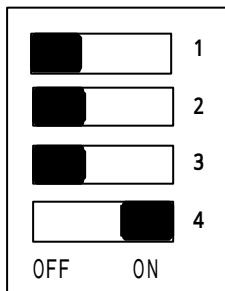
付属のＡＣアダプタ（FMO-ADP）より電源を供給します。
図のようにMOディスクユニットの「ＤＣ　ＩＮ」にＡＣアダプタのプラグを奥まで止まる様に差し込みます。

⑧　ＳＣＳＩ・ＩＤ番号設定用スイッチ

MOディスクユニットのＩＤ番号を設定するスイッチです。
付属の回し具をスイッチの矢印部分に差し込み、回転させて設定したい番号に合わせて下さい。

▲出荷時の設定

▲回し具

⑨　MO設定用スイッチ

MOドライブユニットの設定を行うスイッチです。

▲出荷時の設定

ＳＷ５　ＯＦＦ　*MOモード*

ＳＷ６　*ＯＦＦ*　*未使用（このままでお使い下さい）*

ＳＷ７　*ＯＦＦ*　*未使用（このままでお使い下さい）*

ＳＷ８　*ＯＦＦ*　*ターミネータ*　ＯＦＦ　　ＯＮ　*ターミネータ　ＯＮ*

Part 3　取扱いについて

1．メンテナンス

MOドライブおよびMOディスクは、ゴミ，ちり，ほこり，タバコの煙や灰などの付着によって性能が低下したり、場合によっては装置の故障の原因となります。安全にご使用いただくには、MOドライブおよびディスクを定期的に清掃する必要があります。

(1)MOドライブユニットのお手入れ

まず、 ＡＣ電源ケーブルをコンセントから外してください。
本体の汚れは、やわらかい布によるカラ拭きか、水または中性洗剤を含ませてよく絞った布で軽く拭いてください。　揮発性の溶剤（ベンジン、シンナー）等の使用は、変形や変色などの原因となりますので避けてください。

(2)MOドライブの清掃

３か月に一回を目安に、専用クリーナを使って清掃します。
◆クリーニングの目安とする期間は使用する環境や頻度によって異なります。

	品　名	商品番号
富士通ピーアンドエス	光磁気ディスククリーニングカートリッジ	０２４０４７０

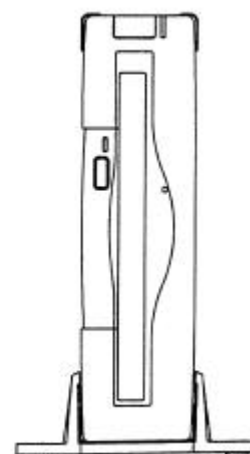
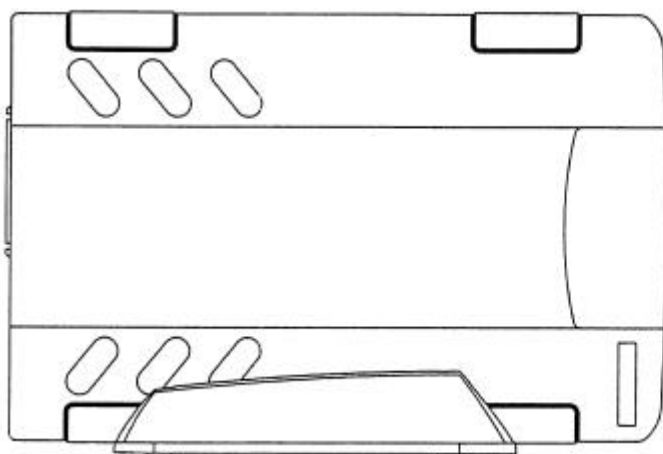
(3)MOディスクの清掃

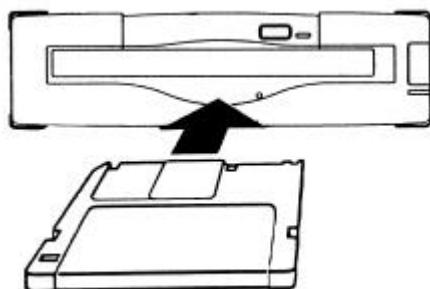
３か月に一回を目安に、専用クリーナを使って清掃します。
◆クリーニングの目安とする期間は使用する環境や頻度によって異なります。

	品　名	商品番号
富士通ピーアンドエス	光ディスククリーニングキット(3.5型)	０６３２４４０
	光ディスククリーニングキット(補充用)	０６３２４５０

2．MOディスクとユニットの取り扱い

(1)MOディスクユニットの設置方向

横置きのデザインになっていますが、付属のスタンドにて縦置きもできます。

(2) MOディスクの挿入

ディスク挿入口からMOディスクを入れます。「カチッ」という音がするまで押し込んでください。
MOディスク挿入直後、ACCESS ランプが数秒間点灯します。この間に装置はディスクの管理状態をチェックして、読み書きを行う準備をしています。

(3) MOディスクの排出

通常は、イジェクトスイッチを押してMOディスクを排出します。
何かの不具合により通常の方法で排出できなくなったときは、強制イジェクトホールにイジェクトピンを入れて排出します。

●イジェクトピンによる排出

1）まず、本体の電源は切った状態にしておきます。
2）強制イジェクトホールにイジェクトピンを入れて､やや強めに押して排出します。
3）排出後、再度電源スイッチをＯＮにしてMOディスクを挿入します。
　ACCESS ランプが数秒間点灯し消灯した後、イジェクトスイッチで排出します。
4）本体の電源をＯＦＦにしてください。

注意 ＭＯディスクユニットの性能と信頼性を確保するため、イジェクトピンを使用してディスクを取り出す場合には、必ずユニットの電源を切った状態で行ってください。

(4) MOディスクのラベルについて

MOディスクにラベルを貼る場合には、必ず専用のラベルを決められた位置に貼付してください。
また、貼付する面は汚れや油分などをきれいに拭き取っておいてください。
専用のラベル以外のものを貼付したり、貼り直しや、貼付する面が汚れていると剥がれの原因となり、場合によってはMOドライブユニットの内部に貼り付いてしまい、排出が困難となります。

(5) オーバーライト機能について

これまでは、MOにデータを書き込みする場合［消去］→［書込み］→［ベリファイ］の３ステップが必要で、書込みの遅さがMOの弱点とされていました。　しかし、オーバーライト対応MOディスクを使用することにより、書込み動作は［オーバーライト］→［ベリファイ］の２ステップになり、回転待ち時間も減少します。オーバーライト機能を使うことにより、書込み速度は約３０％アップします。
本MOドライブユニットは、この機能に対応しておりますのでその快適さを実感することができます。

●オーバーライト機能の使用上の注意

1）オーバーライト機能はオーバーライト対応MOディスクが必要です。
2）従来のMOディスクを使用した場合は、従来と同じ書き込み速度になります。
3）オーバーライト対応MOディスクは、この機能に対応していないMOドライブでは使用できません。

オーバーライト対応MOディスクは、次のものをおすすめします。

	品　名	商品番号
富士通ピーアンドエス	６４０MBオーバーライト対応 OW６４０	０２４２７１０
	５４０MBオーバーライト対応 OW５４０	０２４２５１０
	２３０MBオーバーライト対応 OW２３０	０２４２３１０

Part 4　コンピュータとの接続

(1) MOディスクドライブユニットを設定・接続する前に

●コンピュータが的確にセッティングされていますか？
●ＳＣＳＩカードが的確にセッティングされていますか？
●ＳＣＳＩカードがコンピュータ上で正常に動作していますか？

この条件がすべて満たしていましたら、以下の順でMOディスクユニットの接
続を行ってください。

MOディスクユニットのスイッチ設定

▼

ＳＣＳＩケーブルの接続

◆各ＳＣＳＩ機器と接続するためのＳＣＳＩケーブルをご用意して接続してください。
（ＳＣＳＩセットモデルにはケーブルを付属しております。）

▼

電源ケーブルの接続

▼

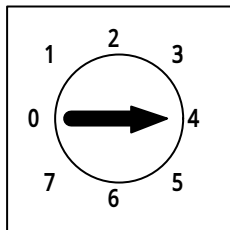
POWERスイッチ　ON

注意　感電のおそれや、本製品またはその他お客様の財産に損害を与える可能性があります。　各スイッチの設定およびＳＣＳＩケーブルの接続は電源を切った状態で行ってください。

(2)MOドライブユニットの設定

●ＳＣＳＩ・ＩＤ番号設定用スイッチ

ＳＣＳＩ・ＩＤ番号設定用スイッチで接続するパソコンの環境に合わせて設定を行って下さい。
誤った設定をすると正常な動作ができませんので、よく確かめてください。
設定ができましたら、次の項目に進んでください。

◆付属の回し具をスイッチの矢印部分に差し込み、回転させて設定したい番号に合わせて下さい。

▲出荷時の設定

▲回し具

●設定上の注意

1）ほとんどの場合、ＳＣＳＩカードはＳＣＳＩ・ＩＤ番号＝７で設定されていますので、<u>MOドライブユニットのＳＣＳＩ・ＩＤ番号の設定範囲は０～６</u>となります。
2）他にＳＣＳＩ機器を接続している場合、ＳＣＳＩ・ＩＤ番号が同じにならないように設定して下さい。
3）パソコンおよび、ＳＣＳＩカードのマニュアルも併せてお読みください。

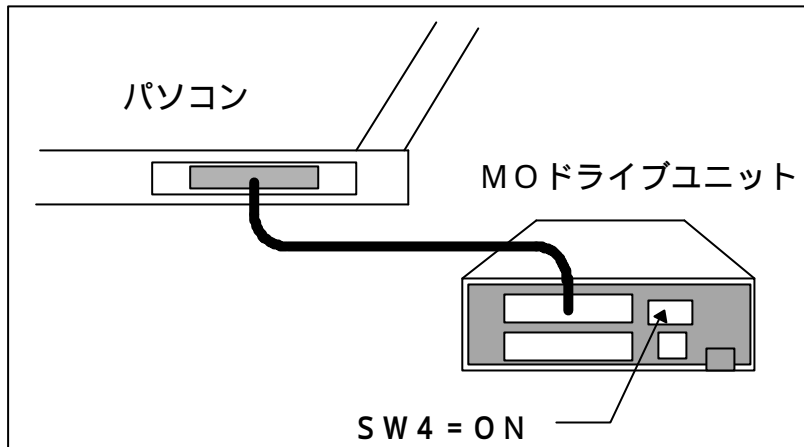
注意 感電のおそれや、本製品またはその他お客様の財産に損害を与える可能性があります。　各スイッチの設定およびＳＣＳＩケーブルの接続は電源を切った状態で行ってください。

●MO設定用スイッチ

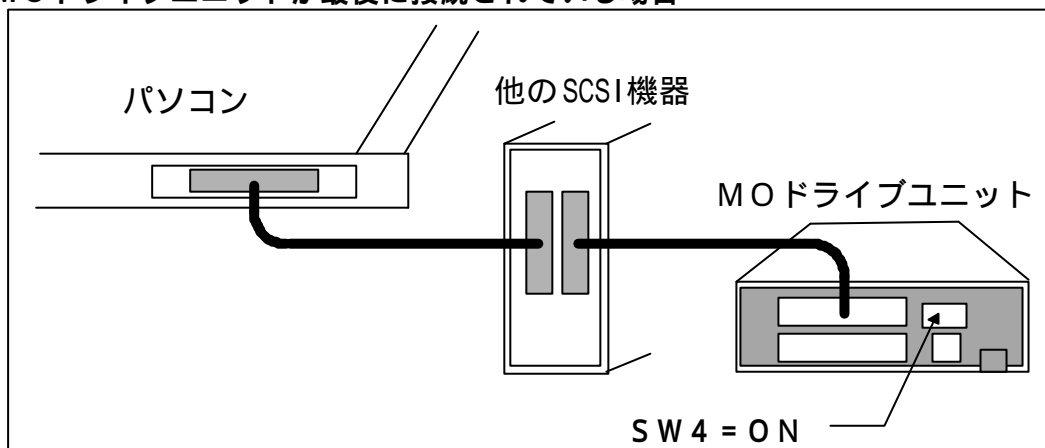
MO設定用スイッチは、基本的には出荷時設定のままでお使いいただけますが、ＳＷ４のターミネータＯＮ／ＯＦＦの設定はＳＣＳＩ機器を接続する環境によって合わせる必要があります。
図を参考にしてターミネータのＯＮ／ＯＦＦを設定して下さい。
誤った設定をすると正常な動作ができませんので、よく確かめてください。
設定ができましたら、次の項目に進んでください。

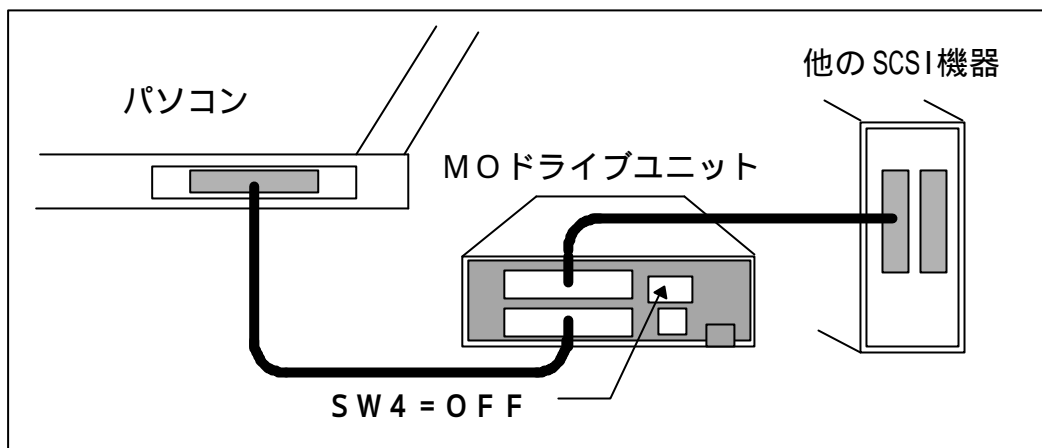
●設定上の注意

1）このMOドライブユニットは、スイッチ設定でターミネータのＯＮ／ＯＦＦ（ターミネータ機能の有効／無効）ができます。　よって、外付けのターミネータは必要ありません。
2）もし、外付けのターミネータをこのMOドライブユニットに装着した場合には、<u>必ずＳＷ４＝ＯＦＦ</u>に設定して下さい。
3）パソコンおよび、ＳＣＳＩカードのマニュアルも併せてお読みください。

①ＭＯドライブユニット１台だけで、他にＳＣＳＩ機器がない場合

●ターミネータの設定
ＭＯ設定用スイッチのＳＷ４をＯＮにしてください。
◆外付けのターミネータは不要です。
もし、外付けのターミネータを取り付けた場合はＳＷ４はＯＦＦにしてください。

②ＭＯドライブユニット以外にもＳＣＳＩ機器がある場合

ａ．ＭＯドライブユニットが最後に接続されている場合

●ターミネータの設定
ＭＯ設定用スイッチのＳＷ４をＯＮにしてください。
◆外付けのターミネータは不要です。
もし、外付けのターミネータを取り付けた場合はＳＷ４はＯＦＦにしてください。

ｂ．ＭＯドライブユニットが途中に接続されている場合

●ターミネータの設定
ＭＯ設定用スイッチのＳＷ４をＯＦＦにしてください。

（3） ＳＣＳＩケーブルの接続

ＭＯディスクドライブユニットのＳＣＳＩコネクタにＳＣＳＩケーブルを「カチッ」と音がするまで差し込み、抜けないように固定してください。
コネクタは２箇所（SCSIIN、SCSI OUT）ありますが内部で同一接続となっていますのでどちらを使用されても構いません。
◆コネクタ形状は、ハーフピッチ Ｄｓｕｂ５０ピン（メス）になっています。各ＳＣＳＩ機器と接続するためのＳＣＳＩケーブルをご用意して接続してください。（SCSIセットモデルにはケーブルが付属しています。）

（4） 電源ケーブルの接続

ＭＯディスクユニットの「ＤＣ ＩＮ」に付属のＡＣアダプタのプラグを奥まで止まるまで差し込んでください。

注意
付属のＡＣアダプタを使用してください。
付属のＡＣアダプタ以外で使用した場合、故障の原因になります。
また、本装置およびお客様の財産に損害を与える可能性があります。

（5） ＰＯＷＥＲスイッチ ＯＮ

ＭＯディスクユニットのＰＯＷＥＲスイッチをＯＮにしてから、パソコンの電源を入れてください。

Section 2

デバイスドライバ
セットアップ

Part 1　Windows9x、Windows3.1

■対応機種（各機種に対応したデバイスドライバをご使用下さい。）
●ＦＭＶ（各社ＤＯＳ／Ｖ，ＰＣ９８－ＮＸ）

(1)ご使用上の注意
インストールを始める前に下記の注意事項を必ずお読み下さい。

(a)SCSIカードのドライバは最新のものをご使用下さい。
最新のドライバの入手方法は、ご使用のSCSIカードメーカーにお問い合わせ下さい。

(b)Windows9x で、ドライブアイコンを右ボタンクリックして現れるプルダウンメニューの［ディスクコピー］ではMOディスクへのディスクコピーはできません。この機能はフロッピーディスクに対するものです。

(c)2048 bytes/sector MOディスクに対して、FDISK が表示する容量は実際の容量の1/4です。

(d)2048 bytes/sector MOディスクに、 Windows9x のドライブスペース は使えません。

(e)フォーマット中にフォーマットプログラムを強制終了すると、MOディスクが壊れることがあります。
絶対に行わないで下さい。

(f)MOフォーマッタ(MOFORMAT.EXE) を使用中は、他のアプリケーションでMOドライブにアクセスしないで下さい。

(g)MOフォーマッタ(MOFORMAT.EXE) が表示する容量は未フォーマット時のディスク容量です。
Windows 9x のフォーマッタでは、論理フォーマット後の容量を表示するために、これらの数字にずれが生じます。
また、論理フォーマット後の容量は、ご使用のフォーマッタの種類により多少異なる場合があります。
これは、各々のフォーマッタが独自に仕様を決めているために生じます。　ご使用上の問題はありません。

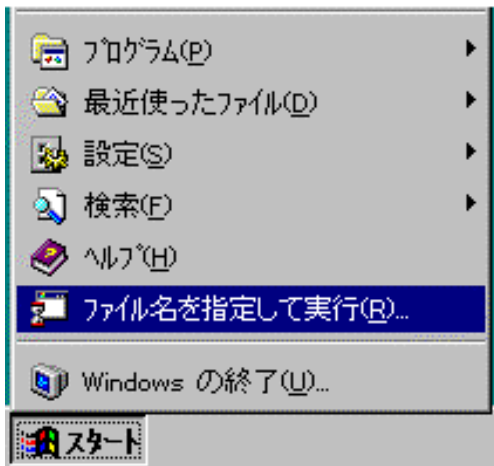
(h)MOドライブの［デバイスマネジャ］→［プロパティ］→［設定］で、「切断」オプションを有効にしてお使い下さい。　無効のままですと、物理フォーマットが正常に行えない場合があります。

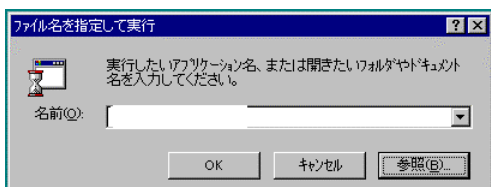
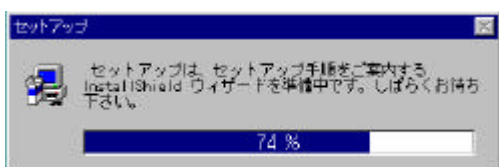
(I)MOドライブの［デバイスマネジャ］→［プロパティ］→［設定］で、ドライブ文字を複数予約しないで下さい。

●デバイスドライバのインストール

インストーラを使って、Windows9x（Windows3.1）にソフトをインストールします。
次の操作を行い、セットアッププログラムを実行してください。
※説明はWindows9xの場合です。Windows3.1の場合は表示される様子・内容が若干異なっております。

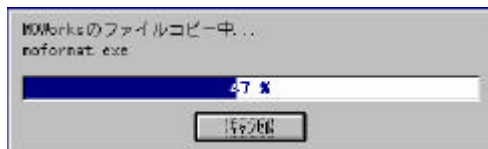
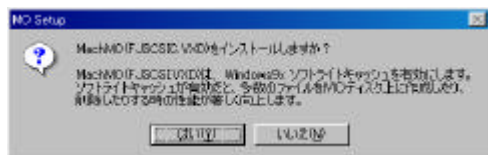
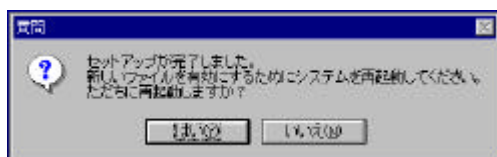
◆説明では、コンピュータのＣＤドライブがＥドライブ、インストールするハードディスクがＣドライブという環境を想定しています。　ご使用になるコンピュータの環境によってドライブ名が説明と異なる場合がありますので、ご使用の環境に合わせて行ってください。

(a)ＣＤドライブ（Ｅドライブ）にデバイスドライバをセットします。
［スタート］から［ファイル名を指定して実行］を選んでください。
(DOS/V機でWindows3.1の場合は、［アイコン］から［ファイル名を指定して実行］を選んでください。)

［ファイル名を指定して実行］が開いたら、［名前］の項目に“ *E:DOSV|SCSI|Win9x|SETUP* ”と入力

して［ＯＫ］をクリックしてください。
(DOS/V機でWindows3.1の場合は、“ *E:DOSV\SCSI\W31\SETUP* ”と入力してください。)

(b)［SCSI 光磁気ディスク ドライバ／フォーマッタ］の画面が現れます。

［ようこそ］とインストール導入前に際しての説明が表示されますので、内容を確認しましたら、［次へ］をクリックしてください。

［インストール先の選択］の表示に移ります。
［インストール先のディレクトリ］の項目に“ C:\Program Files\SCSIMO ”が表示されますので、［次へ］をクリックしてください。

(c)［プログラムフォルダの選択］の表示に移ります。
［プログラムフォルダ］の項目に“ SCSI MO ”が表示されますので、［次へ］をクリックします。その後、プログラムファイルのコピーを行います。

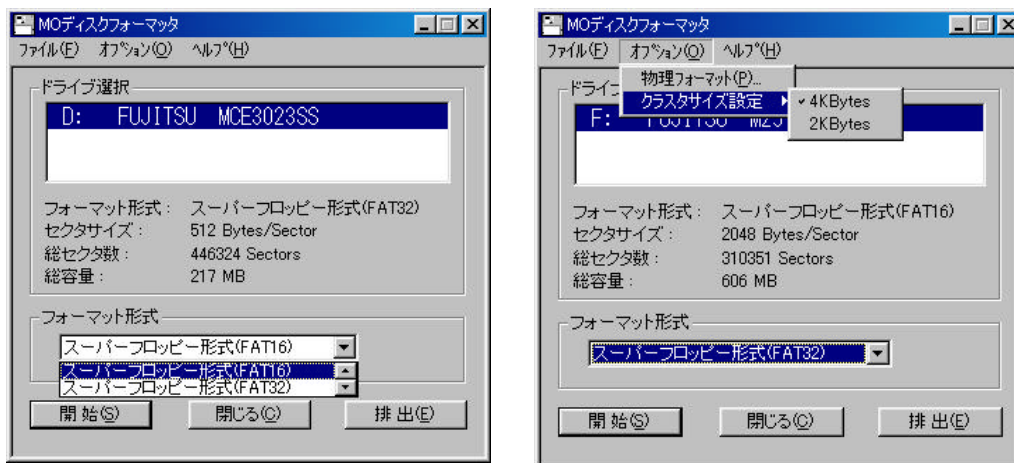
(d)ファイルのコピーを開始します。

(e)［MO Setup］の表示に移ります。
「MachMO(FJSCSIC.VXD)をインストールしますか？」と確認をする表示がされますので、［はい］をクリックします。　その後、プログラムファイルのコピーを行います。
※MachMO（マッハMO）とは、Windows 9x のソフトライトキャッシュを有効にするドライバです。
　これによりの書き込み時の速さが向上します。
　(PC9800と、DOS/V機でWindows3.1の場合は、この機能はありません。)

(g)再起動を促すメッセージが表示されますので、［はい］をクリックして再起動してください。

(h)正常に再起動しましたら、デバイスドライバのインストールは完了です。

●MOディスクをフォーマットするには

インストールしたフォーマッタを起動することで、MOディスクをフォーマットすることができます。

※ソフトのセットアップが完了していないとフォーマットすることができませんのでご注意ください。
※Windows9x 上のフォーマッタ、［ファイル］→［フォーマット］でのフォーマットより便利です。

(a) MOディスクを本体に挿入し、MOディスクフォーマッタを起動します。
［スタート］→［プログラム］→［ＳＣＳＩ MO］の順に開き、［MOディスクフォーマッタ］のアイコンをクリックします。
※Windows3.1では、［ファイル名を指定して実行］で［コマンドライン］の項目に
C:\SCSIMO\MOFORMNAT.EXE と入力して［OK］をクリックしてください。

(b)［MOディスクフォーマッタ］の画面が表示されますので、［フォーマット形式］を選択して、［開始］をクリックします。

選択できるフォーマット形式は以下のとおりです。

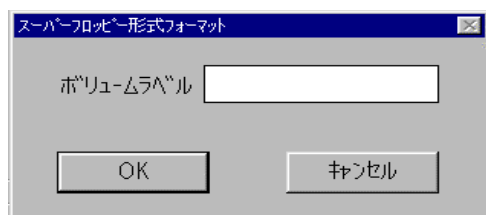
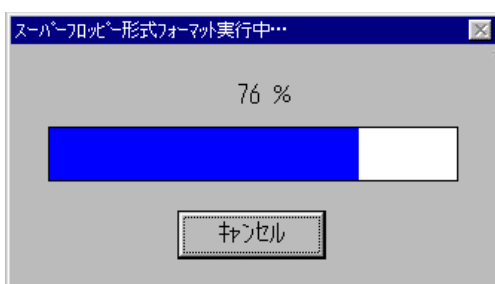
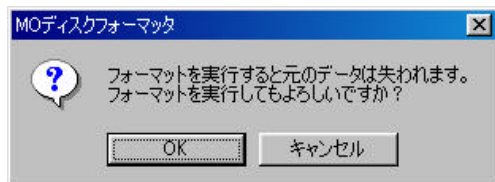
●スーパーフロッピー形式（ＦＡＴ１６）／（ＦＡＴ３２）
通常はこの形式（ＦＡＴ１６）でフォーマットすることをおすすめします。
ほとんどの機種・ＯＳで共通に使用することができ、フロッピーディスクと同様のフォーマット形式で、大容量のフロッピーディスクのようにMO ディスクが使用できます。
複数区画（パーティション）を設定することはできません。

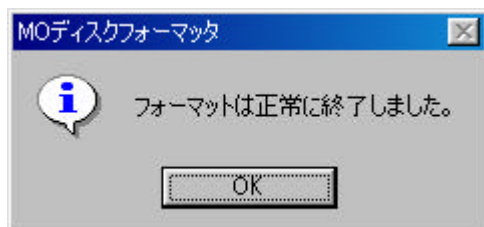
●ハードディスク形式（ＦＡＴ１６）／（ＦＡＴ３２）
ＤＯＳ／Ｖ機のハードディスクと同じ形式のフォーマットです。おもにＤＯＳ／Ｖ機で共通に使用することができます。
このフォーマッタでは､複数区画（パーティション）を設定することはできません。

※ＦＡＴ３２について
ＦＡＴ３２タイプのフォーマットがされたMOディスクで使用できるのは、Windows9５（OS R2・バージョンの末尾がＢ）以降のバージョンです。

●クラスタサイズの設定
フォーマット形式で「スーパーフロッピー形式（ＦＡＴ３２）」もしくは「ハードディスク形式（ＦＡＴ３２）」が選択すると、クラスタサイズを４Kbytes、２Kbytes に設定できます。

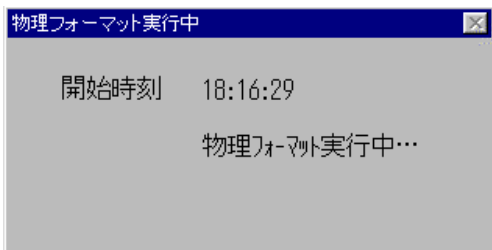
※クラスタサイズの設定ができるのは、６４０MB、５４０MB のMOディスクです。

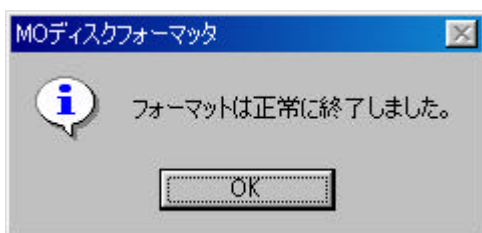
(c)［ボリュームラベル］の入力をします。特に入力しないのであれば［OK］をクリックします。

(d)フォーマットを開始する前に、本当に実行しても良いかどうか確認をします。
良ければ［OK］をクリックします。

フォーマットが開始され、進行状況の表示がされます。

(e)フォーマットが完了しましたら、［OK］をクリックして終了します。

●物理フォーマットをするには

(a)［光磁気ディスクフォーマッタ］の画面で、メニューバーに［オプション］をクリックしてください。

［物理フォーマット］のプルダウンメニューをクリックします。
次に［開始］をクリックします。

(b)フォーマットを開始する前に、本当に実行しても良いかどうか確認をします。
良ければ［OK］をクリックします。

フォーマットが開始され、［物理フォーマット実行中．．．］と、進行状況の表示がされます。

(c)物理フォーマットが完了しましたら、［OK］をクリックして終了します。

このあと、フォーマット（スーパーフロッピー形式／ハードディスク形式）を行ってください。

Part 2　MS-DOS6.2

■対応機種
　●ＦＭＶ（各社ＤＯＳ／Ｖ，ＰＣ９８－ＮＸ）
■対応ＯＳ
　●ＭＳ－ＤＯＳ６．２

(1)ご使用上の注意
　インストールを始める前に下記の注意事項を必ずお読み下さい。

(a)ご使用のSCSIボードに対して、ASPIマネージャが正しく動作している事を確認して下さい。

(b)他社のMO用デバイスドライバと一緒にお使いにならないで下さい。

(c)このデバイスドライバは Logical Unit Number(LUN)=0 のみをサポートしています。

(d)FAT32のMOディスクはご使用になれません。

(e)このデバイスドライバが CONFIG.SYS に二重に登録されている場合、後に登録されているデバイスドライバはロードされません。「ロードする」とは、メインメモリ上に常駐することを意味します。
常駐量はおよそ 13k bytes です。ドライバが装置に割当てるドライブ名が多くなりますと、その分常駐量は増えます。

(f)2048 bytes/sector（６４０MB）MOディスクには、ブートセクタを書換えるようなユーティリティはご使用できません。

(g)MOディスクに対して、ＤＯＳ組込み FORMAT コマンド(FORMAT.COM)は、お使いにならないで下さい。

(h)Smartdrv のライトキャッシュは、MOドライブに対してデフォルトの設定では無効ですが、有効にする事も可能です。MOドライブに対して Smartdrv のライトキャッシュを有効にした場合、絶対にライトプロテクトされたMOディスクに対して書き込みをしないで下さい。
Smartdrv のライトキャッシュを有効にした状態で、ライトプロテクトされたMOディスクに書込みを行うと、作業を中断してコンピュータをリセットせざるを得なくなる事があります。
その場合、作成中のデータが失われてしまいます。

(2)環境設定
　ＭＳ－ＤＯＳでMOディスクユニットをご使用の場合には、このＯＳに対応している添付のデバイスドライバソフトを以下のようにインストールしてください。
　添付のデバイスドライバには、他のＯＳ用のソフトも入っていますのでご注意ください。
　誤って他のＯＳ用のソフトをインストールすると不具合が生じます。

(a)セットアップの条件
　・ＳＣＳＩカードが正しくコンピュータにセッティングされ、パソコンに対して正常に認識されていなければなりません。
　・本デバイスドライバは、ASPIマネージャ上で動作しますので、config.sysにＳＣＳＩカードに用意されているＡＳＰＩマネージャを登録します。

```
DEVICE=C:\SCSI\ASPI4DOS.SYS /D          ← ASPIマネージャ
```

　アダプテックAHA-1542CFを使用した例です。config.sysに上のようなASPIマネージャの記述があるか確認してください。
※ＳＣＳＩカードのセッティングや、ASPIマネージャについては、その取扱説明書をお読みください。

(3)デバイスドライバのインストール

(a)インストーラを使って、ハードディスクにソフトをインストールします。

```
C:\>e: (Enter)
E:\>CD DOSV\SCSI\DOS (Enter)
E:\DOSV\SCSI\DOS>install (Enter)
```

ＣＤドライブ（Ｅドライブ）にカレントドライブを移動して、インストーラを起動します。

```
SCSI 光磁気ディスク ドライバ／フォーマッタ セットアップ Version *.**
ALL RIGHTS RESERVED. COPYRIGHT (C) FUJITSU LIMITED 1996-1999

 1→ ReadMeファイルの表示
 2→ インストール開始
 3→ 終了

対応する処理番号を選択してください＞2(Enter)
```

［2］でインストールを開始します。

```
インストール先のパスを入力してください。(ﾃﾞﾌｫﾙﾄ値：C:\SCSIMO）＞(Enter)
```

Enterキーだけの場合は［C:\SCSIMO］ディレクトリが作られ、そこに必要なファイルがコピーされます。

```
CONFIG.SYSが存在するドライブを指定してください。(ﾃﾞﾌｫﾙﾄ値：C）＞(Enter)
```

Enterキーだけの場合は［C:］ドライブのconfig.sysを参照します。

```
C:\SCSIMO へのインストールを開始します。
よろしいですか？［Y/N］＞Y(Enter)
```

```
コンピュータ起動時、画面表示を一時停止しますか？［Y/N(Enter)］＞N(Enter)
```

起動時にデバイスドライバが表示するメッセージで一時停止させたい場合には　Y(Enter)。

```
FJFDISKJ.EXE → C:\SCSIMO\FJFDISKJ.EXE コピー終了
        :                    :
```

ファイルをＣＤからハードディスクへコピーしています。

```
CONFIG.SYSを書き換えますか？［Y/N］＞Y(Enter)
```

config.sysの最後に［DEVICE=C:\SCSIMO\MODISK2.SYS］という行が追加されます。

インストールが終了するとインストーラの最初の画面に戻りますので、インストーラを終了します。

(b)パソコンを再起動します。

MOドライブの接続およびデバイスドライバの設定が正しければ、デバイスドライバが起動され、メッセージが表示されます。
MOが正しく認識されない場合は、電源を切ってから、各スイッチの設定、ケーブルの接続、ターミネータの設定などを確認してください。

```
光磁気ディスク／ハードディスクデバイスドライバ(ASPI)Version *.** c
All Rights Reserved, Copyright (C) FUJITSU LIMITED 1992-1999
-----------------------------------------------------------------
(#HstAdptr:#ScsiID)=( 0: 4) Optic; Removable; FUJITSU *******
 *Media not Present* 00 DOS drv(s);  01 drv(s) assumed;DriveName=D:
(#HstAdptr:#ScsiID)=( 0: 6) * No device *
-----------------------------------------------------------------
 DOS version=06; Max sector size=  512 bytes.
```

※表示内容は、一部異なることがあります。
　この例ではMOのＳＣＳＩ－ＩＤは4、論理ドライブ名は「D:」になりました。

(4)フォーマット

(a)フォーマットの種類

MOディスクの論理フォーマットは「スーパーフロッピー(ＩBMフォーマット)」が主流となっています。 Windows9x でサポートされているフォーマットも、スーパーフロッピーフォーマットです。
スーパーフロッピーフォーマットならば、各種パソコン／ＯＳでMOディスクを利用できます。
このフォーマッタでは、スーパーフロッピーの他に、「物理フォーマット」「ハードディスク」のフォーマットにも対応しています。

(b)ＦＪＦＤＩＳＫＪ

［ＦＪＦＤＩＳＫＪ.ＥＸＥ］は１２８MB～１．３ＧＢまでのMOディスクに対して、論理フォーマット（スーパーフロッピー／ハードディスク）および物理フォーマットを行うことができます。通常、買ったばかりのMOディスクは物理フォーマット済ですので、論理フォーマットを行ってから使用します。

フォーマットするMOディスクをMOドライブにセットします。

```
C:\>cd SCSIMO (Enter)
C:\SCSIMO>fjfdiskj (Enter)
```

ファイルをコピーしたディレクトリに移動して、フォーマッタを起動します。

```
          ドライブを選択してください。
―――――――――――――――――――――――――――――
HA#0 - SCSI ID 4:  FUJITSU *****            D:
終了
```

最初の画面で、フォーマットするMOドライブを選択します。カーソル上下キーで移動させ、Enterで選択します。(［終了］を選択するとFJFDISKJを終了します)

```
    フォーマットの種類を選択してください。
    ＊は現在のフォーマットの種類です
―――――――――――――――――――――――――――――
          S  スーパーフロッピィ
          A  ハードディスク

           1  物理フォーマット
           2  初期画面に戻る
```

スーパーフロッピィを選択します(Enter)。

```
    選択されたディスク場の全てのデータが失われます
    フォーマットを実行しますか？
―――――――――――――――――――――――――――――
                実行
                中止
```

実行を選択(Enter)すると、フォーマットが始まります。

```
    ボリュームラベルを入力してください (11文字)
              [                ]
```

必要ならば、ボリュームラベル(MOディスクの名前)を入力します。

フォーマットが終了すると最初の画面に戻りますので、フォーマッタを終了します。

Part 3　WindowsNT4.0/3.51

■対応機種

●ＦＭＶ（各社ＤＯＳ／Ｖ，ＰＣ９８－ＮＸ）

(1)ご使用上の注意

インストールを始める前に下記の注意事項を必ずお読み下さい。

(a)Windows NT4.0 で、特定の環境にてインストーラが動作しない場合があります。
その場合は、 Windows NT3.51 用のデバイスドライバをインストールして下さい。 Windows NT3.51 用デバイスドライバ、及びMOフォーマッタは、 Windows NT4.0 上でも問題なく動作します。

(b)MOフォーマッタは administrator 権限でログオンした場合にお使いになれます。

(c)フォーマットされていないMOディスクを、右クリックや format.com でフォーマットすることはできません。必ずMOフォーマッタをお使い下さい。

(d)スーパーフロッピー形式でフォーマットされている MO ディスクを、右クリックや format.com で再フォーマットすると、きちんとフォーマットされない場合があります。必ずMOフォーマッタをお使い下さい。

(e)フォーマット中にMOフォーマッタを強制終了するとディスクの内容が破壊されることがあります。絶対にしないで下さい。

(f)MOフォーマッタをお使いになっている最中は、他のアプリケーションでMOディスクにアクセスしないで下さい。

(g)MOフォーマッタが表示する容量は未フォーマット時のディスク容量です。
Windows NT は論理フォーマット後の容量を表示するためずれが生じます。
また、論理フォーマット後の容量はフォーマッタにより多少異なる場合があります。
これは各々のフォーマッタが独自に仕様を決めるため生じる問題です。お使いになる上で何ら問題はありません。

(h)MOディスクは NTFS フォーマットでフォーマットしないで下さい。

(i)MOディスクをMOドライブのイジェクトボタンを押して取り出すと、画面上に取り出した MOディスクの情報が残ることがあります。そのような場合は、一度エクスプローラ（又はファイルマネージャ）を閉じてから、再度表示させて下さい。

(j)システムに接続されているハードディスクに FAT フォーマットでフォーマットされた区画が存在しない場合（NTFS フォーマットでフォーマットされた区画のみ存在する場合）フォーマットされているMOディスクにアクセスしているにもかかわらず、エラーメッセージが表示される場合があります。
その場合は再度MOディスクにアクセスすれば、問題なくお使いになれます。
それでもエラーメッセージが表示される場合は、一度フロッピィドライブにアクセスした後、再度MOディスクにアクセスすれば、問題なくお使いになれます。

(k)このデバイスドライバをアンインストールする場合は、このデバイスドライバが制御するMOドライブが接続されていないことを確認して下さい。１台でも接続されている場合は、このドライバソフトをアンインストールしないで下さい。
MOドライブがこのデバイスドライバによって制御されていないのを確認するには、 MOフォーマッタを起動して下さい。
制御されていないと、「ドライバの初期化に失敗しました。」というメッセージが表示されます。

(l)このデバイスドライバを上書きインストールする場合、古いMOフォーマッタ等が残ることがあります。

(2)環境設定

Windows NT Workstation Version 4.0/3.51 日本語版でMOディスクユニットをご使用の場合には、このＯＳに対応している添付のデバイスドライバソフトを以下のようにインストールしてください。
添付のデバイスドライバには、他のＯＳ用のソフトも入っていますのでご注意ください。
誤って他のＯＳ用のソフトをインストールすると不具合が生じます。

(a)セットアップの条件（必ずドライブ文字を割り当てて下さい）

このデバイスドライバをご利用になる場合、デバイスドライバが制御する MOドライブに対してドライブ文字を割り当てる必要があります。ドライブ文字を割り当てていないMOドライブはお使いになれません。以下の何れか方法で、ドライブ文字を割り当てて下さい。

1)インストール時にインストーラを利用して割り当てる。
2)インストール後、MOフォーマッタを利用して割り当てる。(「ドライブ文字の割当／解除を参照)

※ドライブ文字を割り当てる時は、MOドライブのドライブ文字が他のドライブ文字より後ろになるように割り当てて下さい。他のドライブ文字より前にした場合、ファイルマネージャ等からそのドライブ文字のドライブが認識できなくなることがあります。

(3)デバイスドライバのインストール

次の操作を行い、セットアッププログラムを実行してください。

(a)Windows NTを起動し、Administrator権限を持つアカウントでログオンして下さい。

(b)ＣＤドライブ（Ｅドライブ）にご使用のWindows NTに対応したデバイスドライバディスクを挿入して下さい。

(c)［スタート］メニューから［ファイル名を指定して実行...］を選択して下さい。

(d)Windows NT4.0 の場合
"*E:DOSV\SCSI\NT40\SETUP* " と入力し、［ＯＫ］ボタンを押して下さい。
Windows NT3.51 の場合
"*E:DOSV\SCSI\NT351\INSTALL* " と入力し、［ＯＫ］ボタンを押して下さい。

(e)画面の指示に従い、インストールを行って下さい。

(f)インストールが正常終了した後 Windows NT を再起動すると、デバイスドライバが有効になります。

(4)デバイスドライバのアインストール

Windows NT4.0 の場合

(a)［マイコンピュータ］から［コントロール パネル］を開いて下さい。

(b)［アプリケーションの追加と削除］を開いて下さい。

(c)［MO Device Driver and MO Disk Formatter］を選択し、［追加と削除...］ボタンを押して下さい。

(d)画面の指示に従い、アンインストールを行って下さい。

(e)アンインストールが正常終了した後 Windows NT を再起動すると，デバイスドライバが無効になります。

Windows NT3.51 の場合

このデバイスドライバにはアンインストール機能はありません。アンインストールする場合は、以下の手順に従って下さい。

(a)MOドライバを無効にして下さい。(「デバイスドライバ」を参照して下さい。)

(b)「MOフォーマッタ」をプログラムグループから削除して下さい。

(c)不要であれば、MOフォーマッタが登録されていたプログラムグループを削除して下さい。

(d)Windows NT のインストールされているディレクトリの中の "SYSTEM32"ディレクトリに存在する"MOFORMAT.EXE"を削除して下さい。

(5)デバイスドライバ

(a)特徴

このデバイスドライバは以下のフォーマットのディスクを読み書きする事ができます。

- スーパーフロッピ形式
- ハードディスク形式

(b)デバイスドライバを無効にするには

Windows NT4.0 の場合

アンインストールを実行し正常終了した後、 Windows NT を再起動すると，デバイスドライバが無効になります。

Windows NT3.51 の場合

1)［メイン］→［コントロールパネル］→［デバイス］ を開いて下さい。

2)デバイスの項目に f3axmokc と f3axmodk がある事を確認して下さい。

3)f3axmokc を選択して［スタートアップ］ボタンを押します。

4)［スタートアップの種類］の中から［無効］を選択して［OK］を押して下さい。
「デバイスのスタートアップの種類を変更すると、システムは使用不能になる可能性が有ります。変更してもよろしいですか？」 とメッセージが表示されます。ここで［はい］を押して下さい。

5)f3axmodk を選択して［スタートアップ］ボタンを押します。

6)［スタートアップの種類］の中から［無効］を選択して［OK］を押して下さい。
「デバイスのスタートアップの種類を変更すると、システムは使用不能になる可能性が有ります。変更してもよろしいですか？」 とメッセージが表示されます。ここで［はい］を押して下さい。

7)［デバイス］画面に戻ったら［閉じる］を選択して下さい。

8)Windows NT を再起動して下さい。

(c)デバイスドライバを有効にするには

Windows NT4.0 の場合

インストールを実行し正常終了した後、 Windows NT を再起動すると、デバイスドライバが有効になります。

Windows NT3.51 の場合

再度デバイスドライバを有効にするには以下の作業を行って下さい。

1)［メイン］→［コントロールパネル］→［デバイス］ を開いて下さい。

2)デバイスの項目に f3axmokc と f3axmodk がある事を確認して下さい。

3)f3axmokc を選択して［スタートアップ］ボタンを押します。

4)［スタートアップの種類］の中から［システム］を選択して［OK］を押して下さい。

5)f3axmodk を選択して［スタートアップ］ボタンを押します。

6)［スタートアップの種類］の中から［ブート］を選択して［OK］を押して下さい。

7)［デバイス］画面に戻ったら［閉じる］を選択して下さい。

8)上記の設定を再度確認の上，Windows NT を再起動して下さい。

(6) MOフォーマッタ

(a)機能

このMOフォーマッタには，次の４つの機能があります。

- MOディスクのフォーマット
- MOディスクのコンバート
- MOディスクのイジェクト
- ドライブレターの割当/削除

(b)MOフォーマッタの起動方法

フォーマッタの起動方法は次の通りです。

WindowsNT4.0 の場合

1)［タスクバー］の［スタート］をクリックして下さい。

2)［プログラム］メニューをクリックして下さい。

3)［MO Utilities］メニューをクリックして下さい。
※このメニューの名前をインストール時に変更していれば、その名前になります。

4)［MO フォーマッタ］を選択して下さい。

WindowsNT3.51 の場合

1)［プログラム マネージャ］から［MO Utilities］を開いて下さい。
※このメニューの名前をインストール時に変更していれば、その名前になります。

2)［MO フォーマッタ］をダブルクリックして下さい。

(c)MOディスクのフォーマット形式

このMOフォーマッタは，次の２つの形式でMOディスクをフォーマットする事ができます。

- スーパーフロッピ形式
- ハードディスク形式

(d)スーパーフロッピ形式のディスクを作る方法

1)MOフォーマッタを起動して下さい。(「MOフォーマッタの起動方法」参照。)

2)フォーマットしたいMOディスクの入ったMO装置を選択（※）して下さい。

※［HA# x，SCSI y］ボタンを押して下さい。ここで HA# x の "x"は該当ドライブが接続されているホストアダプタの番号を指し、SCSI y の "y" は該当ドライブの ID 番号を指します。

3)［フォーマット］メニューから[ディスクフォーマット...]を選択して下さい。

4)［フォーマット形式］リストから［Floppy type］を選択して下さい。

5)必要に応じて［ボリュームラベル］ボックスにボリュームラベルを入力して下さい。

6)物理フォーマットが必要な場合は，［物理フォーマット］チェックボックスをチェックして下さい。

7)必要に応じて［クイックフォーマット］チェックボックスをチェックして下さい。
クイックフォーマットをチェックすると、全面ベリファイをしません。

8)［OK］を押します。

9)［フォーマット］メニューの［反映］を選択します。

10)確認ダイアログで［はい］を選択します。この時点で設定した情報が媒体に書き込まれます。

11)MOフォーマッタを終了して下さい。

(e)ハードディスク形式のディスクを作る方法

1)MOフォーマッタを起動して下さい。(「MOフォーマッタの起動方法」参照。)

2)フォーマットしたいMOディスクの入ったMO装置を選択（※）して下さい。
※［HA# x，SCSI y］ボタンを押して下さい。ここで HA# x の "x"は該当ドライブが接続されているホストアダプタの番号を指し、SCSI y の "y" は該当ドライブの ID 番号を指します。

3)［フォーマット］メニューから[ディスクフォーマット...]を選択して下さい。

4)［フォーマット形式］リストから［Hard Disk type］を選択して下さい。

5)必要に応じて［ボリュームラベル］ボックスにボリュームラベルを入力して下さい。

6)物理フォーマットが必要な場合は，［物理フォーマット］チェックボックスをチェックして下さい。

7)必要に応じて［クイックフォーマット］チェックボックスをチェックして下さい。
クイックフォーマットをチェックすると、全面ベリファイをしません。

8)［ＯＫ］を押します。

9)［フォーマット］メニューの［反映］を選択します。

10)確認ダイアログで［はい］を選択します。この時点で設定した情報が媒体に書き込まれます。

11)MOフォーマッタを終了して下さい。

(7)MOディスクのコンバート
このMOフォーマッタ以外でフォーマットされたMOディスクを使用するためのコンバート方法です。
(「付録A」参照。)

(a)MOフォーマッタを起動して下さい。(「MOフォーマッタの起動方法」参照。)

(b)コンバートしたい MOディスクの入ったMO装置を選択（※）して下さい。
※［HA# x, SCSI y］ボタンを押して下さい。ここで HA# x の "x"は該当ドライブが接続されているホストアダプタの番号を指し、SCSI y の "y" は該当ドライブの ID 番号を指します。

(c)［ツール］メニューから［ディスクコンバート...］を選択して下さい。

(d)画面表示に従って操作を行って下さい。

(e)MOフォーマッタを終了して下さい。

(8)MOディスクのイジェクト

(a)MOフォーマッタを起動して下さい。(「MOフォーマッタの起動方法」参照。)

(b)イジェクトしたいMOディスクの入ったMO装置を選択（※）して下さい。
※［HA# x, SCSI y］ボタンを押して下さい。ここで HA# x の "x"は該当ドライブが接続されているホストアダプタの番号を指し、SCSI y の "y" は該当ドライブの ID 番号を指します。

(c)［ツール］メニューから［ディスクの排出...］を選択して下さい。

(d)画面表示に従って操作を行って下さい。

(e)MOフォーマッタを終了して下さい。

(9)ドライブレターの割当/削除

※ドライブ文字を割り当てる際には、MOドライブのドライブ文字が他のドライブ文字より後ろになるように割り当てて下さい。他のドライブ文字より前にした場合、ファイルマネージャ等からそのドライブ文字のドライブが認識できなくなることがあります。

(a)MOフォーマッタを起動して下さい。(「MOフォーマッタの起動方法」参照。)

(b)ドライブ文字を割り当てたいMO装置にMOディスクを挿入して下さい。

(c)ドライブ文字を割り当てたいMOディスクの入ったMO装置を選択（※）して下さい。
※［HA# x, SCSI y］ボタンを押して下さい。ここで HA# x の "x"は該当ドライブが接続されているホストアダプタの番号を指し、SCSI y の "y" は該当ドライブの ID 番号を指します。

(d)［ツール］メニューから［ドライブ文字の割当...］を選択して下さい。

(e)ドライブ文字を割り当てる時は、［選択ドライブ］からドライブ文字を選択し、［追加］ボタンを押して下さい。

(f)ドライブ文字を削除する時は、［割当ドライブ］からドライブ文字を選択し、［削除］ボタンを押して下さい。

(g)［OK］ボタンを押し,［ドライブ文字の割当］ダイアログを終了して下さい。

(h)「新しいドライブ文字の割り当ては、直ちに行われます。続行してもよろしいですか？」とメッセージが表示されます。ここで「はい」ボタンを押して下さい。

(i)MOフォーマッタを終了して下さい。

仕　様

<table>
<tr><td colspan="3">型番</td><td>FMO-２３０W2
FMO-２３０WS２</td><td>FMO-６４０W2
FMO-６４０WS２</td><td>FMO-１３００W2
FMO-１３００WS２</td></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="3">MOディスク</td><td colspan="3">３．５インチカートリッジ型　ＩＳＯ標準フォーマット光ディスク媒体</td></tr>
<tr><td>１２８MB／２３０MB</td><td>１２８MB／２３０MB
５４０MB／６４０MB</td><td>１２８MB／２３０MB
５４０MB／６４０MB
１．３GB</td></tr>
<tr><td colspan="3">（２３０MB／５４０MB／６４０MB オーバーライトディスク対応）</td></tr>
<tr><td colspan="3">回　転　数（±0.1%）</td><td colspan="3">４，５５８rpm（1.3GB メディア使用時　３，２１４rpm）</td></tr>
<tr><td colspan="3">平均シークタイム</td><td colspan="3">２３ms</td></tr>
<tr><td colspan="3">バッファ容量</td><td colspan="3">2MBキャッシュ搭載</td></tr>
<tr><td rowspan="2">周
囲
環
境</td><td colspan="2">動　作　時</td><td colspan="3">温　度　　５～３５℃（勾配１５℃／h以下）
湿　度　１０～８５％（結露しないこと）</td></tr>
<tr><td colspan="2">保　管　時</td><td colspan="3">温　度　　０～５０℃
湿　度　１０～８５％（結露しないこと）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">耐
振
性</td><td colspan="2">動　作　時</td><td colspan="3">振　動　　　０．４G（５～５００Hz）
衝　撃　　　２．０G（１０ms）</td></tr>
<tr><td colspan="2">保　管　時</td><td colspan="3">振　動　　　１．０G（５～５００Hz）
衝　撃　　　５０G（１０ms）</td></tr>
<tr><td colspan="3">Ｍ　Ｔ　Ｂ　Ｆ</td><td colspan="3">１２０，０００時間</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">ＳＣＳＩ</td><td>インターフェース</td><td colspan="3">ＳＣＳＩ－２／Ultra SCSI 対応</td></tr>
<tr><td>コネクタ形状</td><td colspan="3">Ｄｓｕｂハーフ５０ピン メス型</td></tr>
<tr><td colspan="3">ターミネータ</td><td colspan="3">アクティブ　ターミネータ内蔵</td></tr>
<tr><td colspan="3">電　　源</td><td colspan="3">専用ＡＣアダプタ</td></tr>
<tr><td colspan="3">消　費　電　力</td><td colspan="3">１０W以下</td></tr>
<tr><td colspan="3">外　形　寸　法</td><td colspan="3">１１９(W)×１８５(D) ×３２(H)mm</td></tr>
<tr><td colspan="3">重　　量</td><td colspan="3">約０．９ｋｇ</td></tr>
</table>

Ｍｏｃｋｉｎｇ Ｂｉｒｄ－MO
光磁気ディスクユニット取扱説明書

発行日・版数

２０００年　3月・第２版

株式会社 富士通パーソナルズ
Tel．0120-65-8180

Printed in Japan